

令和 4年 7月 19日

浜田市議会議長 様

議員名 西田 清久

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和4年7月5日(火) 13:30~15:00
2. 研修内容 VR認知症体験
講師 黒松 慶樹 氏 (小規模多機能型居宅介護センター・サソエるだー 管理者)
3. 研 修 先
浜田市役所 議会全員協議会室
4. 調査経費 3,000 円
(経費内訳 受講・体験料 3,000 円)
5. 調査研究活動の概要
 - ・ 認知症状をヴァーチャルリアリティの技術を用いて疑似体験することにより、認知症の人の気持ちの共感的理解を図ることを目的に、黒松氏による講義とスコープを使ったヴァーチャル体験を行った。
 - ・ 一言で認知症と言っても、大きく5つに分類されることの説明を受ける。
 - アルツハイマー型認知症
 - 脳血管性認知症
 - レビー小体型認知症
 - 前頭側頭型認知症
 - その他の認知症



6、所感

65歳以上の方で5人に1人が認知症になると言われており、いつ誰に認知症の症状が現れてもおかしくない現状で、認知症について理解し、認知症の方と日常的に寄り添いながら接することができる社会の構築の重要性を改めて認識することができた。

ヴァーチャルリアリティスコープでは、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症を体験し、認知症状の側になった気持ちも雰囲気を感じることもできた。

40代から認知症の可能性があるとされており、認知症予備軍を含めると今後増々増加傾向にある。その予防には、生活習慣が大きく関わっており、個々では生活習慣をしっかりと見直すことと、社会全体としては認知症になっても誰もが不安に陥らない環境を創り出すことが今後の課題だと思う。

高齢化率の高い浜田市においても、認知症患者数と介護保険料とは相関関係にもあることから認知症予防にさらに力を入れなければならないと思った。